

# トピックス

## 忘れたころにやってきた病害、コムギうどんこ病

2021年産小麦において、本県では例年発生が見られないコムギうどんこ病が認められ、かつてない多発生となった。アメダスデータを検討したところ、突然の発生の要因は、暖冬による生育の前進、3月以降の高温傾向と定期的な降雨、黄砂の特異的な飛来、作付されている品種の特性によると考えられた。

### 内容

2021年4月に農業技術センター内予察圃で、例年発生が見られず、1996年以降、本県での発生記録がないコムギうどんこ病が確認された。そこで栽培地域におけるコムギうどんこ病の発生状況を把握するとともに、突然の発生の要因について考察した。

2021年4月下旬に播磨地域の7市町12地点、5月上旬に丹波地域の1市5地点を調査した。葉の発病程度から発病度を算出した。その結果、調査地点によって発病茎率、発病度に差が認められ、同じ地点でも発病に差が見られた(表)。品種によっても発病に差が見られ、本病にかかりやすい(罹病性の)「シロガネコムギ」は発病度3.29、抵抗性が弱の「ふくほのか」と「せときらら」はそれぞれ16.3と12.0であった。これに対して、抵抗性がやや強の「ゆめちから」は0であった。福崎アメダスにおける2021年の平均気

表 2021年産小麦におけるうどんこ病発生調査

調査地点	調査日	調査圃場数	発生圃場数	発病茎率(%)	発病度
市川町東川辺	4/22	2	2	46.0	11.5
市川町千原	4/22	1	1	100	70
市川町谷	4/22	1	1	100	65
神河町吉富	4/22	3	3	50.7	23.3
神河町高朝田	4/22	2	1	8.0	2
宍粟市岸田	4/22	1	0	0	0
宍粟市矢原	4/22	3	0	0	0
加西市別府西	4/22	4	0	0	0
加西市中野町	4/22	4	0	0	0
加古川市志方町	4/22	6	4	6.0	1.5
稲美町加古	4/22	2	0	0	0
小野市浄谷町	4/22	3	0	0	0
丹波市山南町井原	5/11	5	3	9.7	2.9
丹波市山南町奥	5/11	6	2	1.0	0.3
丹波市柏原町南田原	5/11	5	0	0	0
丹波市氷上町御油	5/11	5	5	44.6	13.4
丹波市青垣町東芦田	5/11	6	3	6.7	1.9

1地点1~6圃場、1圃場あたり連続する25茎の発病を調査  
 発病度 = (4×A+3×B+2×C+1×D) ÷ (4×調査茎数) × 100  
 A: 発病株の上位3葉の病斑面積率が17%以上の茎数、B: 同、9~16%の茎数、  
 C: 同、5~8%の茎数、D: 同、1~4%の茎数、E: 発病なし

温と降水量を平年値と比較すると、2021年は暖冬年で3月以降も気温が高く、周期的に平年を上回る降雨があった(図)。このような春温暖で雨が多く、植物が早くからよく繁茂しているという状況は、本病が発生しやすい条件に合致していた。また、本病の発生に関係が深いといわれる黄砂の飛来について、早晩を大阪での初観測日、多少を3~4月の観測回数から見ると、2011年~2020年では、初観測日は平均4月12日、3~4月の観測回数は0~3回に対して、2021年はそれぞれ3月16日、5回と非常に早くから、かつ多く飛来していた。このような気象条件に作付されている小麦品種の特性が合わさって、「忘れられていた」本病が一部地域であるが多発したと考えられた。

### 今後の方針

本病は罹病株の残渣などが伝染源となるため、2021年に発生した圃場は特に注意して、丁寧な防除をする。

松本 純一 (病害虫部)

(問い合わせ先 電話: 0790-47-2420)

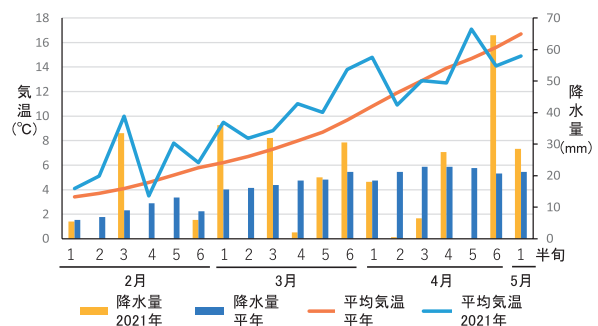


図 2021年2月~5月1半月の平均気温と降水量の平年値との比較